2026.7・8月合併号 第692号

アシュラム ASHRAM

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856
アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp
編　集　アシュラム誌編集委員会
振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター
印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

ゼカリア書の終わり近くに、ひときわ不思議な言葉が記されている。「昼もなければ、夜もない」、「夕べになっても光がある。これが「夜がない世界」と言われるなら、まだ理解しやすい。闇のない世界、涙のない世界、死のない世界。しかしゼカリアが見た幻は、そのようなものではなかった。そこには「昼も夜もない世界」が描かれているのだ。

創世記において、神は光と闇を分けられた。そして聖書は、「夕べがあり、朝があった」と繰り返し語る。昼と夜は、この世界の時間そのものである。朝が来ればやがて夕べが来る。花は咲けば散り、若さは老いへ向かい、命あるものはやがて死を迎える。私たちは皆、その時間の流れの中を生きているのである。ところがゼカリアは、その時間そのものが終わりを迎える幻を見る。「夕べになっても光がある。」本来なら光が衰え、闇が近づくはずの夕暮れに、なお光がある。老いていき、別れがきて、そして死へと向かう時に、なおそれを照らす消えることのない光があるというのである。それは太陽の光ではない。神ご自身の臨在の光なのである。

この幻を、ヨハネ黙示録は、新天新地として鮮やかにこう語る。「都には、それを照らす太陽も月も必要でない。神の栄光が都を照らしており、小羊が都の明かりだからである。」（黙21：23）そして、「もはや夜はなく、ともし火の光も太陽の光も要らない。神である主が彼らたちを照らされるからである。」（黙示録22：5）と記すのだ。ここで語られる永遠とは、単に終わりなく続く時間ではない。日本人がどこかで思い描く、春夏秋冬が巡り続けるような円環的な永遠。桜は散っても季節が巡ってくればまた咲き、命は子へ孫へと受け継がれていく、そのような循環の中にある永遠ではないのである。聖書が語る永遠は、まさに創造から終末へ、約束から完成へと向かう歴史の時である。昼と夜を繰り返しながら進んできた時間が、ついに神の光の中で満たされる。そしてその時、「昼も夜もない」世界が訪れるのである。

教父アウグスティヌスは『告白』の中でこう語っている。「もし現在が過去へ移り去ることなく、常に現在であるなら、それはもはや時間ではなく、永遠である。」永遠とは、ただ長く続く時間ではない。過去への後悔や未来への不安に引き裂かれることなく、「今」が神の中で完全に満たされることである。ゼカリアの見た「昼も夜もない世界」も、ヨハネが見た「太陽も月も必要でない」世界とは、陰ることのない永遠の世界と言うことができる。夕暮れへと向かいながら、なお失われることのない光。その光の中で、私たちは神に迎え入れられるのである。

「ただいま」。只今。唯今。過去でもなく、未来でもない、この今。永遠とは、もしかすると、この「ただいま」が失われることのない世界なのではないだろうか。放蕩の果てに父のもとへ帰ろうとした息子を、父は走り寄り、抱きしめた。過去への後悔と未来への不安を逡巡する間もなく、父は「おかえり」と彼を抱きしめたのだ。

友よ、ゼカリアが見た幻も、黙示録が語る終末も、まさにそのような世界なのだ。永遠とは、どこまでも続く孤独な時間ではない。それは神に迎え入れられる時なのだ。夕暮れの中にありながら、なお陰ることのない永遠の時。終わりへ向かいながら、なお失われることのない光。その時、神は「おかえり」と迎えてくださる、永遠の「ただいま」の世界を知るものとなろうよ。

瞑想

その日は、主にのみ知られている。そのときは昼もなければ、夜もなく、夕べになっても光がある。

（ゼカリア14：7）

主幹牧師　榎本　恵

50周年コンサートの舞台裏に起きた神の奇跡③

榎戸　真弓

コンサートすべて終了〜！！

「お客様がまだホールに入っていない」「ファミリーの時間が終わらない」といった情報が飛び交い、焦燥感が募ります。「先生！会場にはお客様が10名しかいません。バレエダンサーが躍り出て観客が10人でどうしますか」「そなやなあ〜。それでも終わりを遅くできんねん…。ほな10分遅らそか…」「予ベル10分押し！Q出しするまで鳴らさないで！ステージ開始10分押しです！」楽屋に響く舞台監督の叫び声。静かな客席とは裏腹の舞台裏。ステージの表側には見えない、舞台裏のドラマ。

開演のブザーが鳴り、予定より10分遅れて幕が上がりました。クラシックバレエの優雅な舞踏、弦楽三重奏の繊細な音色、台湾の方々の力強いパフォーマンス、クワイアーチャイムの澄んだ響き、そして会場を揺るがすゴスペルソング。どの演目も最高の形で披露され、深い感動を覚えました。

私自身も司会として舞台に立ちながら、同時に舞台監督としても裏側の完璧な流れを感じ取っていました。音響、照明、舞台転換、全てが滞りなく、予定通りに進んでいきました。前日まであれほどの混乱があり、当日もスケジュールがリンクしていなかったことを知る者にとっては、この完璧な流れこそが、神の奇跡以外の何物でもありませんでした。神様は、私たちの無力さを知った上で、ご自身の栄光のために全てを整えてくださったのです。

共にいてくださる神様の約束

コンサートは大成功のうちに幕を閉じました。舞台裏に戻ったスタッフや出演者たちの間には、達成感と共に、神様への深い感謝の念が満ち溢れていました。

この喜びは「何かを達成した成果」ではなく「神様との深いつながりの中で、出演者、スタッフ同志が神様の愛を分かち合うことそのもの」を体験できた貴重な出来事でした。アシュラムのプログラムにはほとんど参加できませんでしたが、これがアシュラムの仲間ならではの、醍醐味ではなかったかと思い起こすことができました。

どのような困難の中にあっても、神様は必ず最善の道を備えてくださる。その確信を、このコンサートの舞台裏で深く心に刻みました。（完）

コンサートの模様はYouTubeにもアップされていますから、どうぞ舞台裏のドラマも想像しながらご覧いただけたら幸いです。

YouTube
「ちいろばチャンネル」
QRよりご覧頂けます

第20回国際正義平和アシュラムの感想②

古憶婷

この3日間、集会や黙想、聖家族の分かち合い、そして日本での見学を通して、イエス様がずっと平安と愛を

（静岡草深教会・静岡聖書教室主催・早天祈祷会の友）（来年の第22回国際正義・平和アシュラム.in静岡 実行委員！感謝‼）

もって私たちと共にいてくださったことを感じました。

特に、年配の兄弟姉妹の姿を見て、体力に限りがあってもなおイエス様を求め続けるその姿に心を打たれました。イエス様こそが私たちの力であり、その愛がどれほど素晴らしいものかを改めて教えられました。

また、日本と台湾のアシュラムのすべての奉仕者の方々が、私たち一人ひとりを細やかに支えてくださったことにも心から感謝しています。

中道基夫牧師は、神様の御言葉は生きていて力があると語られ、梅干しのたとえを用いてくださいました。まだ食べていなくても思い浮かべるだけで唾が出てくるように、聖霊もまた、私たちが近づくと自然に私たちの内側を新しくしてくださるのだと教えられました。

これはアシュラムの時だけでなく、日々の生活の中でも同じです。これからもいつも聖霊と共に歩み、毎日聖霊をお迎えしていきたいと思います。

（つづく）

（台湾基督長老教会 文蘭教会）

日本愛修會心得感想

文蘭教會 古憶婷姊妹

這三天從聚會，靈修，聖家族分享及日本當地參訪，謝謝耶穌一路的平安慈愛陪伴著我們，過程中看著年長的弟兄姊妹，即便體力有限，卻看得見他們對耶穌的渴望，不斷的提醒我，耶穌是我們的力量，耶穌的愛何等的美妙，這當中非常謝謝日本所有愛修會同工及台灣愛修會同工，非常細心照顧我們一切的所需。

中道基牧師分享神的話語是活潑、有生命的，他用酸梅的比喻讓我印象很深刻。還沒吃酸梅，光想到就會流口水，聖靈也是這樣，當我們與祂親近，生命自然會被更新，不是只有在愛修會，在每一天的生活，期許自己常常與聖靈同在，更重要的是每一天都要邀請聖靈與我們同在。

修道場アシュラムに参加して

前海　明代

私は初めて修道場アシュラムに参加させて頂きました。

何もアシュラムの事を知らず飛び込んで、緊張し、戸惑いました。静聴の時間にゆっくり、マタイ26章、27章、28章を熟読する機会を与えられました。

26章のイエス様の頭に香油を注いだ女の話では、彼女の純粋なイエス様への真摯な信仰に感動しました。イエスカリオテのユダの裏切りは、人間の罪深さを露呈していました。改めて自分の罪を見つめ直すことができました。

ペテロの鶏が3度鳴く前にイエス様を否定する所は、人間の弱さが語られており、共感し、この弱さを体験したからこそ、後にペテロの堅い信仰へと結びつくのは私達も周知のことで、何度も涙しました。祭司長や律法学者が群衆を巻き込んでイエス様を死刑にしようと企むのと対照的に、イエス様の行動、態度は人とは違う神性を感じました。

27章の総督ピラトの無責任さは、私達のよくする責任転嫁を思い起こし、反省させられました。十字架刑で苦しみもだえられたイエス様をあざけり、ののしる人々が、処刑後に起こった天変地異を体験し、イエス様に対する畏敬の念を抱くことができたのはアメイジンググレイスです。

マタイ28章にあるマグダラのマリア他、女達が最初に墓からよみがえられたイエス様を知ったことは、あの時代にあって女性を物ではなく人間として扱われていて感無量でした。一方、祭司長達は世的策略で一杯の弁明をしようと対照的な描かれ方が興味深かったです。

復活されたイエス様は権威があり、父・子・聖霊の三位一体と戒められ、弟子達は力強く信仰に立ったミッション活動を始める所に再び感動しました。イエス様は生きて働い

➡原田姉（右、早天祈祷会の友）に誘われ初ご参加の前海姉。皆で安土巡礼ウォークに。

ておられ、私達を愛して下さっておられると確証するみ言葉を学ぶことができ、感謝でした。哀れな私を導いて下さりありがとうございます。
時空を越えてご支配なさっておられるイエス様、これからもよろしくお願いいたします。全てを主に委ねてお祈りします。
（キリスト集会西神キリスト集会）（阪神一日アシュラムにもご参加）

第28回 阪神一日アシュラム感謝の文より

「しかし、わたしは復活した後、あなた方より先にガリラヤ　へ行く。」

マルコ 14：28

第28回阪神一日アシュラムにご参加くださり、心より感謝申し上げます。

復活の主が弟子たちと再会された場所について、福音書はそれぞれ異なる証言を伝えています。ある者はガリラヤと語り、またある者はエルサレムと語ります。しかし、どこであったとしても変わらないことであります。それは、主が弟子たちを待っていて下さったということです。そして、「待ちなさい」と語られたということです。

「待つこと」は、希望であると同時に、不安でもあります。しかし、その御言葉に聞き従ったとき、弟子たちは新しく生かされ、やがてその生涯を通して、主の弟子としての務めを果たしていきました。

ガリラヤで復活の主に出会った7人の弟子たち－彼らは皆、かつて裏切り、逃げ、恐れた者たちでした。誰一人として完全な人ではありませんでした。しかし聖書は、その「7人」を完全数として語ります。主は、不完全な者たちを完全な者として受け入れ、赦し、友として共に食卓についてくださるのです。それは、まさに私たち一人ひとりの姿ではないでしょうか。

主は、今も私たちの「ガリラヤ」で待っていてくださいます。また同時に、「エルサレムを離れず、聖霊を待ちなさい」と語られます。懐かしい信仰の原点と、心燃やされる新しい出発点。その両方がわたしたちの信仰生活には必要なのだと思わされます。

また来年、主にあってお会いいたしましょう。

主は、いつもあなたの「ガリラヤ」で待っていてくださいます。

アシュラムセンター主幹牧師　榎本 恵

⬅4月29日神戸聖愛教会にて。新しく4名の方々も。毎月の阪神ミニアシュラムの祈りの積み重ねに感謝。

⬆猪瀬宅の庭から移植されたアジサイ、シメオン庭にて美しい花が！見守られています。

⬆5月修道場アシュラム、盛岡より角谷晋二牧師ご参加。懐かしい笑顔と長靴姿！！早天後、るっちゃん食堂にて。

⬆5月、小井沼眞樹子宣教師、ブラジルより一時帰国され、各地で講演。「南の大地から風を～…」お働きが継がれていきますよう、祈りつつ。

⬆大阪方面より、若々しい〝もとおとめの会〟の皆様。シメオン見学に。中に、るつこ姉の義妹も！

第２回こどもアシュラムへのおさそい

←バレリーナの更紗お姉さん（写真中央）と。今年も来てねー！

主のみ名を賛美いたします。
いつもアシュラム誌をお読みいただき感謝いたします。
さて、今回は第２回子供アシュラムのご案内をいたします。
日程：2026年8月19日（水）～20日（木）
会場：アシュラムセンター　アンナの家
です。
主題は、喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。（ローマの信徒への手紙12章15節）
さあ、今年はどんな子供アシュラムになるでしょう。わくわくし祈りながら準備してお待ちしています。
参考のために昨年の第１回子供アシュラムの模様を少しご紹介しておきます。昨年は８月８日～９日で行いました。２歳～10歳のお友達が11名参加してくれました。付き添って参加して下さったお母さん、お祖母さんもおられ、大きな喜びでした。聖書のお話しの時はみんな本当に静かに聞いてくれ、賛美は大きな可愛い声で歌ってくれました。遊ぶときは思いっきり大人には想像できないような遊びを見せてくれとても頼もしかったです。
神さまが一人一人のこどもに賜物を与えてくださり、愛してくださっている事に心から感謝いたしました。
さあ、今年も楽しいプログラムを用意していますから是非ご参加ください。
親子、お孫さんとのご参加、大歓迎です。大人向けのやさしい聖書の学びもご用意しています。
詳しくはHPをご覧ください。申し込みもそこからどうぞ！締め切りは８月12日（水）です。

（るっちゃんるんるん♪　橋本るつ子）

いえじま 雑記 36　「初めてのふたり旅」

長女とふたり旅をしました。出発は、フェリーが出るだろうかと疑いたくなるような強風の日。それまでも、６月に入った島の天気は荒れ模様で、台風に濃霧、大雨に雷、さらには津波と続き、そのたびに何度もフェリーが欠航になり、スーパーの棚は日を追うごとに空っぽになっていきました。朝６時半の村内放送によると、その日は午前中の便は通常運行、午後からは欠航とのこと。大慌てで朝一番のフェリーに乗りこんだぼくたちふたり。灰色の海を進むフェリーで、向かいに座っている長女は沖縄そばをすすっています。

目的地は、妻の実家の岐阜。長女とふたりでこんなに長い旅をするのは初めてのことです。お互いに緊張しているのか、普段はおしゃべりな長女も口数少なく、ぼくはぼくで変に話しかけるのもいかがなものかと、客室で映っている朝の情報番組を見ています。テレビの音はフェリーの騒音でかき消され、海上では電波も不安定なのか、映像も途切れ途切れ。それでもテレビに目を凝らします。うしろから「んっ」と聞こえるので振り向くと、長女は沖縄そばを食べ終わったよう。ゴミね、と差し出された空の容器を受け取って、ぐらぐらと揺れる船内を歩いてゴミ箱を探しました。これからまだまだ続くふたり旅、果たして無事にたどり着けるのでしょうか。

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、翻訳家、沖縄伊江島在住）（「暮しの手帖」42号にエッセイ掲載）

【空（6才）のしりとり】⑥まめ（⑤は〝こうま〟でした）

あとがき

先日、横浜港南キリスト教会の村上牧師から、一通のメールをいただいた。以前アシュラム誌に掲載された巻頭言をもう一度読みたいので、送ってほしいというご依頼であった。失礼ながら、それまでお名前を存じ上げなかった先生であったが、この小さなアシュラム誌が遠く離れた地で大切に読まれ、心に留められていたことを知り、大きな励ましをいただいた。

私たちアシュラム運動の伝道は、ある意味で、このアシュラム誌を送り続けることにあると言ってよい。み言葉に聞き、祈り、その恵みを分かち合う。そのために誌面を通して祈りの輪を広げていくことは、創立以来変わることのない大切な働きである。

しかし昨今、郵便料金の値上げをはじめ、印刷費や諸経費の高騰によって、誌面発行を取り巻く状況は決して楽なものではない。時には「神様、どうぞ道を開いてください」と祈りながらも、その声が空しく響くように感じることさえある。その上に、先生からのメールは、「この働きは決して無駄ではない」と主が語りかけてくださる励ましの言葉のようであった。

その後、先生は早天祈祷会にもZoomで参加してくださるようになり、新たな祈りの交わりが生まれていることを感謝している。

またこのたび、クリスチャン新聞からの依頼を受け、ブラジルにおけるアシュラム運動につき、お執筆させていただいた。今年はアシュラム運動の第二年目であり、ブラジルへの宣教旅行を志しながら途上で天に召された榎本保郎牧師の召天五十年を迎える。振り返れば、神は蒔かれた種を決してそのままにはなさらないお方であった。私たちが忘れてしまったような小さな種であっても、神は時を備え、不思議な方法で芽を出させ、実を結ばせてくださる。そしてその実りを通して、私たちに豊かな恵みを見せてくださるのである。

だからこそ、私たちはこれからも種を蒔き続けたい。み言葉の種を、祈りの種を、希望の種を。どうぞこれからも、アシュラム誌をお読みいただき、ともに祈りの歩みを続けていただければ幸いである。

（恵）

…人は目に映ることを見るが
主は心によって見る。」サムエル記上16：7
2021.7.27
榎本和子

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748－33－4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080－3983－8140

7・8月の聖書教室など

7/3(金)	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）
5(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝（PM5:00）
15(水)	みんなのカフェちいろば聖書入門講座（京都・伏見区深草 PM1:30）
21(火)	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター AM10:30）
24(金)	センター聖書教室（アシュラムセンター AM11:00）
27(月)	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30）
28(火)	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター４F AM10:30）
28(火)	しみじみする会（桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30）
9/4(金)	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）
9/5(土)	加古川祈りの家（フリーメソジスト加古川教会 PM1:00）

7月・8月のアシュラムなど

7/20(土)	第29回 福岡一日アシュラム （日基 福岡中部教会 AM9:30～） 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
7/23(木)～25(土)	常任運営委員のための修道場アシュラム 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
8/19(水)～20(木)	第２回 こどもアシュラム 奉仕者　橋本　るつ子師　他	0748－33－4030 アシュラムセンター
8/22(土)	札幌一日アシュラム （札幌クリスチャンセンター AM9:30～） 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター

9月以降のアシュラム予定

9/11(金)～12(土)	第49回 新潟アシュラム
9/20(日)～21(月・祝)	第57回 九州アシュラム（アシュラム連盟）
9/22(火)	第33回 岐阜アシュラム
9/24(木)～25(金)	第14回 日光オリーブの里アシュラム
9/26(土)	第52回 南町田一日アシュラム
10/5(月)	第50回 山陰アシュラム
10/12(月)～14(水)	第51回 加太アシュラム
10/20(火)	第30回 埼玉一日アシュラム
10/31(土)	第７回 水戸バプテスト教会アシュラム
11/2(月)～4(水)	第51回 京浜アシュラム
11/28(土)	第７回 四国一日アシュラム

←アシュラム創設者スタンレー・ジョーンズ師の孫アン・マシューズ師による講演。左は通訳の空兄。

みことば

月桃の実 伊江島

京都大学名誉教授
アシュラムセンター研究員
河崎靖

スタンリー・ジョーンズと クリスチャンアシュラム運動④

キリスト教のアシュラム運動の創設者スタンリー・ジョーンズ（Stanley Jones）は、アメリカのメソジスト派宣教師・神学者であった。ジョーンズは、地上における神の国の意味、および、その具現者としてのキリストの役割について理解した時に、自らの使命は、神の国を再びもたらすことだと確信するようになったという。

先日（2025年11月25日）、ジョーンズの孫娘アン・マシューズ・ユーネス博士[1]が来日された。[2]これは、日本でのアシュラムセンター創立50周年記念を祝福し、講演をするためであった。[3]

アン・マシューズ氏によると、ジョーンズは、アシュラム運動の仲間・メンバーのことを「神の国の苗床」と捉え、脆く弱い存在ながらも、彼らは神の力が満ちた、とてつもない力を秘め、永続的な影響力をもたらす人たちだと信じていたという。

実際、神の国は、実に小さなことから始まり、人の目につかない隠れた場所から始まる。そして、静かな愛と聴従の行為から始まる。私たちがイエスに従うなら、

・彼(イエス)の許しが私たちの許しになる。
・彼(イエス)の勇気が私たちの勇気になる。
・彼(イエス)の哀れみが私たちの哀れみになる。
・彼(イエス)の平和が私たちの平和になる。

アシュラムはこのように、私たちが、イエスによって形作られた人間となるための実践をする場所なのである。

---

1 彼女はワシントンD.C.のウェズリー神学校で神学の修士号・博士号を取得した。学位論文のテーマは、祖父スタンリー・ジョーンズの生涯に焦点を当てられている。

2 作家・宣教師であり、現在スタンリー・ジョーンズ財団の会長を務めている。

3 総合テーマは「全ての地に安息を」であり、大津市にあるピアザ淡海が会場で、多くの市民・関係者が参加した。

〈早天祈祷会にて誕生日者への祈り〉王の齢（よわい）に70年というあのティルスの沈黙の期間、けれども主が時を経て顧（かえり）みを与えることを信じてそれぞれの道を歩んでいくことができますように。イザヤ書23章　6月20日　恵師　65才（沖縄巡礼の旅の途上）